

あけぼの

第30号

令和3年2月16日発行

教委人権教育課

☎229-3253 FAX 229-3017

人と人とが、豊かにつながることの大切さを感じながら ～コロナ禍で、改めて気付いたこと～

新型コロナウイルス感染症が大きく報道で取り上げられるようになってから約1年が経ちました。新しい生活様式や、ステイホーム、テレワーク、さまざまなイベントの中止など、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなる中、皆さんはどのようなことを感じているのでしょうか。

昨年3月～9月の「新型コロナウイルス日米定点生活者意識調査(電通)」によると、「孤独感を感じるか」という問いに対し「そう思う」と答えた人は、5月以降月を追うごとに増加しています。また、九州大学が昨年6月に行った調査では「孤独感や孤立感を感じるか」という問いに対して40%の学生が「当てはまる」「やや当てはまる」と回答しています。

このことは、新型コロナウイルス感染症を予防する中で、人とのつながりを感じづらくなったことが一つの大きな要因なのではないでしょうか。言い換えると、「人と人とのつながりの大切さ」を改めて感じられた1年でもあったのではないのでしょうか。

前回のあけぼのでは、新型コロナウイルス感染症が拡大する社会から見えてきたことや、これからの

社会への願いを取り上げました。人とのつながりは、自分自身を見つめ直すきっかけを与えてくれます。「人とつながっている」という実感は、自分にとって安心できる居場所になります。

今回のあけぼのでは、それぞれの地域や学校で、人と人とが豊かにつながることを大切にしながら活動している「音訳 草笛の会」「ニコニコサロン 泉ヶ丘」「芸濃中学校」の取り組みを紹介します。コロナ禍で活動を休止せざるを得ない状況においても、自分たちの活動の原点を確かめながら、今の自分たちにできることを考え、取り組んでいます。

「人とのつながり」の中で、今まで見えなかったことに気付くことができるかもしれません。また、同じ目的を持つ「人とのつながり」の中からは、これからの社会を生き抜いていく上での展望を見いだすきっかけを得られるかもしれません。

このような社会状況の今だからこそ、地域・職場・家庭において、人とのつながりや温かさを実感するために何ができるのかを、私たち一人一人が改めて考えてみませんか。

人権コラム

一人一人が 自らの問題として

世界中に広がった新型コロナウイルス感染症は、日本でも全ての都道府県で感染が報告されています。そしてウイルスの感染拡大と呼応するかのよう^{ひびく}に、この約1年間、さまざまな誹謗中傷や差別的行為が起きました。SNSなどのインターネット上では、罹患^{りかん}した人を特定しようとしたり、感染を罹患した人の責任にし、その人たちを社会から排除しようとしたりする書き込みも見られました。このようなことは、残念ながら私たちの住む津市でも起きています。

感染症に起因する不当な差別や偏見、いじめは決して許されるものではありません。また、

間違った正義感による行き過ぎた行為は、罹患して不安な思いを抱えている人をさらに追い込むことになり、人と人との関係を分断してしまうのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスには、誰もが感染する可能性があります。そしてコロナ禍であらわになった差別は、私たちが暮らす今の社会で起きているのです。だからこそ、その社会を構成する私たち一人一人が自らの問題として捉える必要があるのではないのでしょうか。

感染症の拡大とともに発生した、いわゆる「コロナ差別」を通して、私たちが自分自身を見つめ直し、自らの行動につなげていくことで、差別や偏見のない社会をつくっていきましょう。

